

プライバシー同意におけるデフォルト効果と提案者への信頼感

○平田栄之介¹・上市秀雄²

(¹ 筑波大学大学院システム情報工学研究群・² 筑波大学システム情報系)

キーワード：デフォルト効果、提案者への信頼感、プライバシー同意

The Default Effect and Trust in the Choice Architect in Privacy Consent

Einosuke HIRATA¹, Hideo UEICHI²

(¹ Degree Programs in System and Information Engineering, University of Tsukuba,

² Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba)

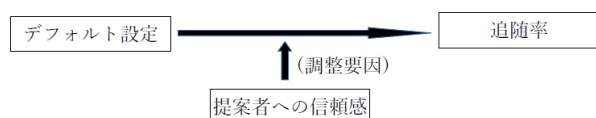
Key Words: Default Effect, Trust in the Choice Architect, Privacy Consent

目 的

デジタルサービスでは、利用開始時に個人データ提供への同意を求められる場面が多い。このとき、同意する／同意しないがあらかじめ選択されているデフォルト設定は、利用者の判断に影響を与えうる (Thaler & Sunstein, 2008)。一方、デフォルト効果がどのような条件で強まるかについては十分に整理されていない (Jachimowicz et al., 2019)。特に、データ提供同意のようにリスク判断を含む場面では、デフォルト設定を提示する主体への信頼感が、デフォルト設定への追随 (デフォルト設定と同じ選択をする) に影響する可能性がある。

そこで本研究では、アプリ初回起動時のプライバシーデータ提供同意場面を想定し、アプリ運営会社への信頼感がデフォルト効果を調整するかを検討した。併せて、推奨感、標準感、無難感、手間感などを用い、デフォルト設定に追随する心理的過程を検討した。

図1 デフォルト設定と追随率、提案者への信頼感の仮説モデル図



方 法

参加者 大学生・大学院生を対象に、Google Form を用いたオンライン質問紙調査を実施した。参加者を誕生日に基づき、運営会社への信頼感の高低とデフォルト設定の種類を組み合わせた 2×2 の 4 条件に割り振った。最終分析対象者数は 39 名 (男性 19 名、女性 17 名、その他/非回答 3 名) となった。

シナリオ 授業連絡や資料配布に用いるキャンパスサポートアプリを初回起動する場面を想定させた。回答者には、外部 IT 企業である運営会社から、サービス改善・最適化のためにアプリ利用データの提供同意を求められる状況を提示した。

なおデータ提供への同意・不同意にかかわらず、アプリの利用に機能制限等はないことも提示した。

信頼操作として、情報管理に関する評価がなされたという記事を提示し、適切と評された記事を高信頼条件、注意を受けた記事を低信頼条件とした。同意判断画面では、「同意する」があらかじめ選択された同意デフォルト条件と、「同意しない」があらかじめ選択された不同意デフォルト条件を設定した。

質問項目 質問項目は、条件割り当てのための誕生日、注意チェック 1 項目、運営会社への信頼感、同意の有無、デフォルト設定関連 8 項目 (気づき、合致感、悩み、熟考、標準感、無難感、手間感、推奨感)、プライバシー意識 3 項目、情緒不安定性 3 項目、決定回避傾向 2 項目、基本属性 (性別、学年) で構成した。

結 果

各条件の追随率を表 1 に示す。追随の有無と 4 条件の関連についてカイ二乗検定を行った結果、有意な関連はみられなかった ($\chi^2=4.322$, $p=.229$)。

また、信頼条件ごとの追随率は高信頼条件 60.0%、低信頼条件 37.5%であったが、信頼条件と追随の有無の関連も有意ではなかった ($\chi^2=1.88$, $p=.170$)。デフォルト条件ごとの追随率は、同意デフォルト条件 40.0%、不同意デフォルト条件 57.1%であったが、デフォルト条件と追随の有無の関連も有意ではなかった ($\chi^2=1.06$, $p=.303$)。

表 1 4 条件別の追随率

高信頼条件	n	追随数	追随率	低信頼条件	n	追随数	追随率
高信頼・同意	12	7	58.3%	低信頼・同意	13	3	23.1%
高信頼・不同意	3	2	66.7%	低信頼・不同意	11	6	54.5%

各質問項目を従属変数とした分散分析の結果、信頼条件間では、高信頼条件の方が低信頼条件より推奨感が高かった ($F=5.863$, $p=.022$)。追随の有無では、追随者の方が非追随者より合致感 ($F=62.755$, $p<.001$) および無難感 ($F=11.256$, $p=.002$) が高かった。また、先延ばし傾向には有意傾向がみられた ($F=3.110$, $p=.088$)。

考 察

本研究からは、プライバシー同意場面におけるデフォルト設定への追随について、二つの点が示された。第一に、高信頼条件では、デフォルト設定を運営会社からの推奨として感じやすかった。第二に、デフォルト設定に追随した参加者は、デフォルト選択肢を自分の意見に合うもの、またそのままにしておくことが無難なものとして評価していた。したがって、デフォルト設定への追随は、単なる初期状態の維持ではなく、推奨感、合致感、無難感といった主観的評価と結びついている可能性がある。

一方、追随率に関する分析では有意な関連がみられず、提案者への信頼感がデフォルト効果を調整するという仮説は支持されなかった。本研究では分析対象数が少なく条件間の人数にも偏りがあったため、今後はより大きく均衡した標本で、再検討する必要がある。

引用文献

- John M. Jachimowicz, Shannon Duncan, Elke U. Weber & Eric J. Johnson (2019). When and why defaults influence decisions: a meta-analysis of default effects. *Behavioural Public Policy*, 3: 2, 159-186
- Sascha Kuhn, John Thøgersen & Florian Kutzner (2023). No trust in the choice architect? No problem! On the minor role of trust for the effectiveness of default interventions promoting the choice of energy-efficient appliances. *Journal of Environmental Psychology*, 91
- Richard H. Thaler & Cass R. Sunstein (2008). *Nudge: Improving Decisions About Health, Wealth, and Happiness*. Penguin Books